

新潟大学佐渡自然共生科学センター 臨海実験所

年次報告書

令和7年度（2025年4月～2026年3月）



目次

活動概要	1
研究概要	3
研究業績	6
外部研究資金	10
各種研究・社会活動	11
臨海実験所の利用状況と社会啓発活動	13
構成員	17

活動概要

臨海実験所は、フィールドワークを通して海洋生物の多様性とその成り立ちについての実践的高等教育を行うというミッションを基に、佐渡島に残されている豊かな自然環境と生物相を利用して、海洋生物の多様性と生理学・生態学・発生学に関する高度な教育・研究を行っている。生物の多様性と普遍性の理解は、生物学の教育・研究の基礎となるものであり、2025（令和7）年度は、新潟大学の理学部理学科（2年生）、同生物学・地質科学・自然環境科学の各プログラム（2、3年生）、理学部・農学部のフィールド科学人材育成プログラム（2、3年生）の学生、全学部の学生および全研究科の大学院生を対象にした臨海実習や講義を通して、基礎生物学およびフィールド科学の教育・研究に貢献した。

また、佐渡自然共生科学センターの他の領域/施設（森林領域/演習林、里山領域/朱鷺・自然再生学研究施設）と協同して、森・里・海をつなぐ生態系についての高度な知識と見識を持つ人材の育成を行った。当実験所は、2017（平成30）年度から2022（令和4）年度まで、文部科学省の教育関係共同利用拠点「佐渡島生態系における海洋生物多様性・適応生理生態学教育共同利用拠点」として活動してきたが、2023年度からは、新たに「佐渡島の森里海生態系における多様な生物相を活用した国際海洋生物学教育共同利用拠点」として認定され（認定期間：2023（令和5）年4月1日～2028（令和10）年3月31日）、国際実習やオンライン実習を交えた多様な教育活動を行っている。教育共同利用として、2025年度には、学内外の実習26件を含め、延べ1,721名が本実験所を利用した。なかでも、国際臨海実習“International Marine Biology Course 2025”は、JST さくらサイエンスプログラムの支援のもと、バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）、チャットグラム獣医動物科学大学（バングラデシュ）、ハノイ国立教育大学（ベトナム）、コーチン科学技術大学（インド）、モナッシュ大学マレーシア校（マレーシア）、サンウェイ大学（マレーシア）、香港大学（中国）、の7つの海外研究教育機関から14名を現地に招聘し、またフランス国立持続可能開発研究所（ニューカレドニア）から1名の特別講師をオンラインで招聘することができた。加えて、本年度は新潟大学個性化科目「佐渡自然共生国際実習」との同時開催としたことで、国内からの参加者7名を合わせた、計22名が参加することとなった。また、リアルタイムおよびオンデマンド型のハイブリッド形式で実施することにより、オンラインでも57名が参加した。本年度は海洋マイクロプラスチック汚染や藻場の減少といった海洋環境問題とそのモニタリング手法の習得をテーマとして、実習内容の一部見直しと新たな教材の整備を行った。

昨年度までに引き続きオンデマンド実習教材の充実をはかった。臨海実験所ホームページにて公開中の佐渡の海洋生物図鑑を随時更新した。現在は282種の解説記事と56編の動画が掲載されており、実習参加者を中心に活用されている。また、昨年度にJBIF日本生物多様性情報イニシアチブに登録した海洋生物の標本情報がデータベース上で公開された。

地域・社会連携については、県内高校生を対象とした公開臨海実習のほか、小中学生や一般の佐渡市民向けの実習、講演会やイベントへの参加を行なった。また、佐渡自然共生科学センターの他領域で連携して、新潟市水族館マリニピア日本海の企画展『SADO ～世界に誇る自然と文化～』への標本の貸し出し、解説文の監修、関連シンポジウムでの講演などの企画協力を行った。

施設・設備については、乗船作業用ヘルメットの導入や光学顕微鏡の更新などを行い、研究・教育環境の向上を図った。構成人員の変更としては、大森紹仁助教が6月1日付で准教授に昇格となった。学生は、9月末より来日したバングラデシュからの留学生2名を含め、大学院生5名と研究生2名、学部4年生2名が在籍し、実験所に常駐してそれぞれの研究を行った。研究活動としては、原著論文5報、著書・総説2報、国際学会での発表5件、国内学会等での発表13件、研究集会等の企画2件を行った。

また、これまで利用者から雑費およびクリーニング代として徴収していた利用料金に代わり、令和7年4月1日から施設使用料と船舶利用料の徴収を開始した。

研究概要

【クサフグの半月周性産卵リズムの調節機構：安東宏徳】

海洋を回遊する魚は、さまざまな海洋環境の変化に適応しながら生殖機能を時期および場所特異的に調節して世代をつないでいる。その適応のしくみについて、半月周性産卵リズムをもつクサフグをモデルとして、視床下部-下垂体系を中心とする生殖神経内分泌系の周期的調節という観点から研究を進めている。クサフグは5-8月に産卵するが、その生殖腺の成熟時期を決めている環境要因として水温が重要である。これまでの研究で、生殖機能を刺激する神経ホルモンである GnRH1、キスペプチン、GnIH の遺伝子発現は高温条件 (28°C) によって抑制されることを明らかにした。夏季の高水温がこれらの生殖調節神経ホルモンの発現を抑制し、産卵期の終わりを導くと考えられる。高水温による生殖機能の抑制の分子機構を明らかにする研究として、高水温による生殖調節ホルモンの発現抑制が季節や魚の成熟状態によって変化するかどうかを明らかにするため、非産卵期のクサフグを用いて温度感受性を検討した。非産卵期に未成熟なクサフグを採集して高温曝露実験を行った結果、キスペプチンの遺伝子発現量は低下しなかった。高水温に対する生殖神経内分泌系の反応は、性成熟状態によって異なると考えられる。

【ウミシダの進化発生・系統分類と海産内在性動物の生態：大森紹仁】

祖先型棘皮動物ウミシダ類を始めとする棘皮動物を用いて、形態の進化と系統分類に関する研究を進めている。ウミシダ類ニッポンウミシダを用いた研究では、ウニやヒトデなどで骨格形成に関与する VEGF シグナルの阻害条件下で発生させたニッポンウミシダ幼生において、*alx1*, *ca*, *mmp*, *msh* といった骨格形成関連遺伝子の発現量が低下することを見出し、ウミシダにおいても VEGF シグナル経路が骨格形成に関与していることを明らかにした。また、ニッポンウミシダの成長段階において、腕と腕に生える羽枝の大きさは変化するがこれらの骨格の比率はほぼ変わらないことを見出し、この特徴が分類学上の形質として利用できる可能性を明らかにした。

佐渡島周辺に生息する海産無脊椎動物の生態に関する研究も進めている。佐渡島周辺に多数生息するアカシマコブウミシダの生殖生態について調査し、当該種が基本的に雌雄異体で放精放卵型の生殖生態をとり、その生殖時期が10~11月であることを解明した。また、臨海実験所近くの外海府達者・姫津沖の水深50~80 m と、真野湾内の水深10~40 m の地点で採泥調査を行い、体長2 mm 程度以下の小型生物を含む計7動物門、160分類群、817個体の底生生物を採集するとともに、これらの地点の底生生物相の違いに水深や底質が影響し、同一地域内であっても測点ごとに生物群集構造の異なる多様な微小底質環境が存在することを見出した。

【魚類における社会行動と認知能力：川坂健人】

協同繁殖を含む多様な社会構造で知られるカワスズメ科魚類や、様々な形態のなわばりをもつスズメダイ科魚類を用いて、魚類における社会行動とその基盤となる視覚認知様式やコミュニケーションシグナルの進化プロセスの研究に取り組んでいる。昨年度に引き続き、タンガニイカ湖に生息するカワスズメ科魚類における仲間と部外者の識別の手掛かりに関する研究を行った。その結果、複数の協同繁殖種において、模様は単純な仲間と部外者の識別よりも、その個体が誰であるかの認識に重要であることが示唆された。また、野外観察と飼育実験から一夫一妻種における配偶者認識の正確さが文脈依存的に変化することを明らかにした。

そのほか、佐渡島に生息する魚類の行動や生態に関する研究も進めている。多様な種の共存を可能にするメカニズムの一つとして種間摂餌連合に着目し、達者および虫崎での潜水調査から、キュウセンが他種と摂餌連合を形成する要因を明らかにした。

【学生の研究課題】

自然科学研究科博士課程 2 年 長部 有沙	ウミシダにおける間充細胞の発生と分化
自然科学研究科修士課程 2 年 長谷川 蓮	佐渡島沿岸の浅海域における小型底生生物相の解明
自然科学研究科修士課程 2 年 堀井 紘大	日本近海産 <i>Anneissia</i> 属ウミシダ類の分類再検討
自然科学研究科修士課程 1 年 小和田 颯汰	海産魚における高水温による生殖抑制の神経内分泌機構
自然科学研究科修士課程 1 年 飛田 峻馬	佐渡島におけるウミシダ類の共生生物相の解明
自然科学研究科研究生 Haphsa Khanom	クサフグの月周産卵リズムの調節機構：半日周発現遺伝子の解析
自然科学研究科研究生 Shaharier Ahmed	底質環境 DNA による佐渡島周辺の底生生物相研究
理学部フィールド科学人材育成 プログラム 4 年 相崎 一陽	ビーチコーミングを活用した佐渡島真野湾の底生生物研究
理学部生物学プログラム 4 年 佃 壮留	ニッポンウミシダの成長に伴う形態変化

研究業績

【原著論文】

Kawasaka, K.

The nuclear-follower association between the zoobenthivorous Asian sheephead wrasse *Semicossyphus reticulatus* and the piscivorous Japanese amberjack *Seriola quinqueradiata*
Journal of Fish Biology 107(4). 1464-1467. doi: 10.1111/jfb.70140 (2025)

Sogawa, S., Inoue, I., Awata, S., Ikeya, K., Kawasaka, K., Kohda, M.,
Three-spined sticklebacks recognize familiar individuals by facial recognition
Royal Society Open Science 12(7). 241888. doi: 10.1098/rsos.241888 (2025)

Ramatahal, J., J., Sugimoto, K., Phan, S., Tara Jambio Microplastic consortium, Patouillet, Y.,
Troublé, R., Luscombe, C., K., Agostini, S.,
An Integrated Assessment of Microplastic Pollution in Coastal Surface Water and
Sediment of Japan
Environmental Science & Technology 59(33). 17746–17759 .doi: 10.1021/acs.est.5c02645 (2025)

Shahriar, S., Zannat, M., Zahangir, M., M., Everman, E., Ando, H., Shahjahan, M.,
Co-exposure to hexavalent chromium and polyamide microplastics alters growth,
hematology, histopathology of tissues and immune genes expression in striped catfish
(*Pangasianodon hypophthalmus*).
Biological Trace Element Research 204(6): 4038–4052. doi: 10.1007/s12011-025-04948-9
(2025)

Shimooka, S., Mitsuo, Y., Kishimoto-Yamada, K., Omori, A., Hookabe, N., Jimi, N.,
Freshwater Colonization by a Scaleless Scale Worm: *Pisione mizuchi* sp. nov. (Annelida:
Sigalionidae), from Sado Island, Japan
Zoological Science 43(2). 212-225. doi: 10.2108/zs250042 (2026)

Ando, H.

Kobayashi Award 2024: Cyclic regulation of the reproductive neuroendocrine system in
fish: Using migratory fish as a model.
General and Comparative Endocrinology 379: 114916. doi: 10.1016/j.ygcen.2026.114916
(2026)

【書籍】

大森紹仁

棘皮動物

『カラー図解 水の中の小さな美しい生き物たち ―小型ベントス・プランクトン 百科―』 仲村康秀, 山崎博史, 田中隼人 (編) 308-311. 朝倉書店 (2025.8)

川坂健人

顔認知: 顔による個体識別、全体処理、部分処理

『動物の行動と心の辞典』 日本動物行動学会, 日本動物心理学会 (編) 105-106.
朝倉書店 (2025.11)

【国際学会の発表】

Ando, H.

Biological clocks that regulate lunar- and tide-synchronized spawning rhythm in marine animals

International Conference on Marine Biodiversity, Genomics and Sustainable Development
Cochin University of Science and Technology
(Cochin, Kerala, India, Online, 2025/4/9-11)

Kawasaka, K.

The development of colour patterns reflects the transition of social status in a group-living cichlid

2025 Joint Conference of the Asian Society of Ichthyologists Annual Meeting and the 12th Indo-Pacific Fish Conference
(Taipei, Taiwan, 2025/6/9-13)

Ando, H., Zahangir, M., M., Shahjahan, M.

Circasemidian transcriptome dynamics in the pineal gland of grass puffer, a semilunar spawner

The 19th International Congress of Comparative Endocrinology
(Sendai, Japan, 2025/7/8-12)

Ando, H., Zahangir, M., M., Shahjahan, M.,

Brain localization of TRPV1a mRNA and temperature-dependent expression in the diencephalon of grass puffer

The 19th International Congress of Comparative Endocrinology
(Sendai, Japan, 2025/7/8-12)

Katada, Y., Okimura, K., Yamaguchi, T., Nakayama, T., Maruyama, M., **Ando, H.**, Kurokawa, D., Yoshimura, T.

Comparative analysis of regional differences in spawning rhythms of grass puffer

The 19th International Congress of Comparative Endocrinology
(Sendai, Japan, 2025/7/8-12)

【国内学会・シンポジウム・セミナーでの発表】

大森紹仁

ウミユリ類より体制の進化を探る

2025 年度 第 1 回形の科学研究センターシンポジウム (佐渡, 2025/5/24)

鶴ヶ谷柊子, 大森紹仁, 幸塚久典

ニッポンウミシダにおける色彩パターンの遺伝と成長に伴う色彩の変化

日本動物学会 第 96 回 名古屋大会 (名古屋, 2025/09/4-6)

坂田美樹, 大森紹仁

光受容関連遺伝子の発現解析に基づくニッポンウミシダの光受容器官の探索

日本動物学会 第 96 回 名古屋大会 (名古屋, 2025/09/4-6)

長部有沙, 大森紹仁

ニッポンウミシダ発生過程における *vegf*, *vegfr* の発現解析

日本動物学会 第 96 回 名古屋大会 (名古屋, 2025/09/4-6)

結城栞, 石垣祥希, 大森紹仁, 荒木功人

多くの無脊椎動物門は、がん抑制遺伝子 *Cdkn2* を欠いている

日本動物学会 第 96 回 名古屋大会, 関連集会 (名古屋, 2025/09/4-6)

萩尾華子, 川坂健人, 山本直之

魚独自の視覚路の進化と視覚認知の解明を目指して

日本動物学会 第 96 回 名古屋大会, シンポジウム (名古屋, 2025/09/4-6)

川坂健人, 奥野聖也, 佐藤駿

顔の模様の違いは血縁関係を反映するか? 協同繁殖魚における模様の個体固有性の検証

2025 年度 日本魚類学会年会 (東京, 2025/11/21-24)

飛田峻馬, 大森紹仁

アカシマコブウミシダの生殖羽枝の季節ごとの組織構造

第 21 回棘皮動物研究集会 (松山, 2025/12/6)

安東宏徳

月周/潮汐同調産卵リズムの神経内分泌メカニズム

慶應義塾大学先端生命科学研究センターセミナー (鶴岡, 2025/12/16)

川坂健人

一夫一妻制シクリッド *Neolamprologus caudopunctatus* における配偶者認識

第 24 回東日本魚類生態研究会 (館山, 2026/2/14)

大森紹仁

サドナデシコナマコの生殖生態と発生

日本生態学会 第 73 回全国大会 (京都, 2026/3/11-15)

長谷川蓮, 大森紹仁

佐渡島達者沖と真野湾の砂底における底生生物相の比較

日本生態学会 第 73 回全国大会 (京都, 2026/3/11-15)

川坂健人

なぜ魚は種間摂餌連合を形成するのか？野外観察から明らかにするその要因

日本生態学会 第 73 回全国大会, シンポジウム (京都, 2026/3/11-15)

【研究集会等の開催】

安東宏徳

JSEC 50th anniversary Symposium: Kobayashi Award and Encouragement Award of

JSCE: Past Contributions and Future Directions in Comparative Endocrinology

The 19th International Congress of Comparative Endocrinology

(Sendai, Japan, 2025/7/8-12)

近藤湧生, 川坂健人, 佐藤駿

魚類行動生態学における野外観察と室内実験の統合：方法論的課題と展望

日本生態学会 第 73 回全国大会 (京都, 2026/3/11-15)

外部研究資金

【科学研究費】

- 1) 川坂 健人：学術変革領域研究（B）（分担, 2023-2025 年度）
魚類の社会的知性の基盤と神経基盤の解明:生態との関連性から探る魚類の高次認知
- 2) 川坂 健人：若手研究（代表, 2024-2028 年度）
スズメダイ類をモデルとした社会認知研究

【その他】

- 1) 安東 宏徳：公益信託エスペック地球環境研究・技術基金（代表, 2024-2025 年度）
高水温による海洋回遊魚の生殖抑制機構の解明：ストレスホルモンの動態と作用
- 2) 大森 紹仁：公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団 試験研究費助成（代表, 2024-2025 年度）
Nanopore シーケンサーを用いた日本近海産 *Anneissia* 属ウミシダ類の分類学・系統地理学的研究

各種研究・社会活動

【学会活動】

安東宏徳

所属学会：日本動物学会，日本比較内分泌学会，日本下垂体研究会，
日本水産学会，The Asia and Oceania Society for Comparative
Endocrinology (AOSCE)
日本比較内分泌学会 幹事
日本下垂体研究会 評議員
AOSCE Councilmember

大森紹仁

所属学会：日本動物学会，日本発生生物学会，日本海洋教育学会，日本生態学会

川坂健人

所属学会：日本動物行動学会，日本動物心理学会，日本魚類学会，日本生態学会
日本魚類学会 広報委員

【学術雑誌の編集委員】

安東宏徳

Neuroendocrinology	Associate Editor
Frontiers in Experimental Endocrinology	Associate Editor
Fish Physiology and Biochemistry	Editorial Board

【外部委員】

安東宏徳

新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議委員
新潟県海岸保全基本計画検討委員会委員
佐渡海区漁業調整委員会委員
佐渡ジオパーク推進協議会調査・研究部会部員
金沢大学環日本海域環境研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会委員
佐渡市環境アドバイザー

大森紹仁

佐渡市環境アドバイザー

川坂健人

佐渡市環境アドバイザー

【外部講師】

大森 紹仁

「海産無脊椎動物の多様性と進化」

放送大学面接授業（非常勤講師）

「生物学実験集中」

慶応義塾大学（非常勤講師）

川坂 健人

「生物学実験集中」

慶応義塾大学（非常勤講師）

臨海実験所の利用状況と社会啓発活動

	他大学			学内		一般・小中高生	計
	フィールド 利用型実習	公開臨海実習	実習以外	実習	実習以外	実習・研修等	
利用人数	648	176	313	317	19	248	1,721

2025（令和7）年度共同利用延べ人数

【他大学の共同利用】

- 1) バングラデシュ農業大学・チャットグラム獣医動物科学大学・コーチン科学技術大学・モナッシュ大学マレーシア校・サンウェイ大学・ハノイ国立教育大学・香港大学
大学生・大学院生・教員 計 71 名，
さくらサイエンス招へいプログラム「Intenational Marine Biology Course 2025」，
2025/7/23-27（オンラインとのハイブリット型実習として実施）
- 2) 大妻女子大学，小関右介 教授 他 計 13 名，
「生物環境保全学ゼミ 臨海実習」，2025/8/6-9
- 3) 浦和大学，鶴ヶ谷柊子 講師 他 計 4 名，
「自然科学・理科教育ゼミ 臨海実習」，2025/8/13-15
- 4) 大阪産業大学，鶴田哲也 准教授 他 計 12 名，「生態学特別演習 2」，2025/8/19-21
- 5) 近畿大学，渡邊俊 准教授 他 計 14 名，「水産生物学実習」，2025/9/3-6
- 6) 慶應義塾大学，堀田耕司 准教授 他 計 27 名，「生物学実験集中」，2025/9/16-20
- 7) 早稲田大学，高野孝子 教授 他 計 34 名，「高野ゼミ佐渡実習」，2025/9/22-23
- 8) 長野大学，満尾世志人 教授 他 計 15 名，「佐渡臨海実習」，2025/9/24-27
- 9) 公開臨海実習，全国 6 国公立大学 学部生 計 12 名，
「海洋生物多様性実習」，2025/8/25-30
- 10) 公開臨海実習，全国 7 国公立大学 学部生 計 13 名，
「森里海をつなぐ野外生態学実習」，2025/9/8-13
- 11) 公開臨海実習，全国 5 国私立大学 学部生 計 6 名，
「動物発生／行動学臨海実習」，2025/3/2-6

【学内の臨海実習】

- 1) 全学部 1 年生対象 26 名, 「地学実験 A」, 2025/6/1
- 2) 理学部理学科・農学部農学科 2 年生対象 10 名, 「系統動物学」, 2025/7/7-10
- 3) 理学部生物学プログラム・理農学部フィールド科学人材育成プログラム 3 年生対象 12 名, 「臨海実習 I」, 2025/8/25-30
- 4) 理学部 2-4 年生対象 4 名, 「環境生物学野外実習 B」, 2025/8/25-30
- 5) 全研究科大学院生対象 4 名, 「先端臨海実習」, 2025/8/25-30, 9/8-13
- 6) 理学部理学科 2 年生対象 9 名, 「海洋生物学実験」, 2025/8/31-9/2
- 7) 全学部生対象 12 名, 個性化科目「森・里・海フィールド実習」, 2025/9/8-13
- 8) 全学部生対象 2 名, 個性化科目「佐渡自然共生国際実習」, 2025/7/23-27
- 9) 全学部 1-3 年生対象 4 名, 「環境生物学野外実習 C」, 2026/3/2-6

【一般向けの臨海実習】

- 1) 佐渡市内小学生・保護者 22 名, 「こども環境学習会 佐渡の海の生きもの調査」, 2025/7/30
- 2) 佐渡市立理科教育センター 教員 10 名, 「佐渡学 磯の生物の生態研修会」, 2025/7/31
- 3) 県内外 9 高校 学生・教員 30 名, 新潟大学公開講座「高校生対象公開臨海実習」, 2025/8/1-4
- 4) 日本生物教育会 教員 26 名, 「新潟大会 佐渡研修」, 2025/8/10
- 5) 国際ペットワールド専門学校 鈴木倫明 講師 他 計 13 名, 「佐渡臨海実習」, 2025/8/15-18

【臨海実験所での社会啓発活動（小中高校生と教員, 市民など）】

- 1) 佐渡市立高千小学校 21 名, 施設見学, 2025/6/14
- 2) 佐渡内小学生・保護者 14 名, Tara-JAMBIO ブルーカーボンプロジェクト「科学でひもとく！ブルーカーボン生態系のチカラ in 新潟・佐渡」, 海岸清掃、マイクロプラスチックの採集と観察, 2025/6/28
- 3) 新潟県立羽茂高等学校 12 名, 海のワークショップ, 磯生物の観察、所内見学, 2025/10/22

【臨海実験所のその他の利用】

学内利用

- 1) 松岡 篤（理学部・フェロー） 他 3 名, 「形の科学シンポジウム」の開催,
2025/5/23-24
- 2) 田辺 彩水（自然科学研究科・大学院生）, 他 2 名, クモヒトデ類の成長輪と年齢と
の関係に関する研究、ニホンクモヒトデの遺伝的集団構造に関する研究,
2025/5/27-28

学外利用

- 1) 邊見 由美（京都大学・助教）, 潮下帯における甲殻類の調査, 2025/4/23-24
- 2) 松野 健司（大阪大学・教授）, 他 7 名, 「形の科学シンポジウム」, 2025/5/23-24
- 3) 石澤 佑紀（新潟市水族館マリニピア日本海・技師）, 他 2 名, 生物標本の借用、採
集生物の一時保管など, 2025/6/10-11
- 4) 山口 大貴（東京海洋大学・大学院生）, 他 11 名, 佐渡ヶ島沿岸の海藻相と分類学
的研究, 2025/6/17-20
- 5) 和田 茂樹（広島大学・教授）, 他 14 名, Tara-JAMBIO ブルーカーボンプロジェクト
での藻場調査, 2025/6/22-28
- 6) 樋口 諒（神奈川県青少年センター科学部・技師）, 他 1 名, 海浜性ウスバカゲロウ
幼虫（アリジゴク）の分布調査, 2025/7/11-14
- 7) Md. Mahiuddin Zahangir（チャットグラム獣医動物科学大学・准教授）, 共同研究、
IMBC2025 実習補助, 2025/7/13-27
- 8) 服部 瑛心（筑波大学・学部生）, 他 6 名, 筑波大学和田研究室 佐渡合宿,
2025/8/22-25
- 9) 後藤 暁彦（東京大学・研究員）, 他 2 名, 河川における降海型・残留型イワナの競
争の研究, 2025/9/5-8
- 10) 家富 洋（立正大学・教授）, 他 8 名, 家富ゼミ研修合宿, 2025/9/28-30
- 11) Maria Teresa Aguado（ゲッティンゲン大学・教授）, 他 4 名, キングギドラシリスの
採集, 2025/9/30-10/12
- 12) 三浦 徹（東京大学・教授）, 他 5 名, キングギドラシリスの採集, 2025/9/30-10/4
- 13) 堀之内 祐介（東京海洋大学・助教）, 他 1 名, 緑色海藻ヒトエグサの生態と多様性,
2026/2/24-26
- 14) 依藤 実樹子（東京大学・特別研究員）, 海洋三重脅威と保全策の生物影響の研究に
関する生物標本の採集, 2026/2/26-27

【臨海実験所外でのイベント・社会教育活動】

- 1) 新潟市水族館マリニピア日本海 企画展『SADO ～世界に誇る自然と文化～』, 企画協力, 2025/7/18-2026/2/23
- 2) 糸魚川フォッサマグナミュージアム 企画展『糸魚川のジュラ紀のアンモナイト』, スタンプラリー協力, 2025/7/19-8/31
- 3) 佐渡市 『子どものための科学祭り』, ブース出展, 2025/9/15
- 4) 新潟市水族館マリニピア日本海 シンポジウム『SADO ～世界に誇る自然と文化～』, 講師 (大森紹仁), 2025/10/4
- 5) 佐渡島自然共生ラボ 『自然共生のみらい会議』, ポスター出展, 2025/10/25
- 6) 学術変革領域B「認知進化生態学」 『水族館がもっと面白くなる！水の中の生き物の社会・知性・脳の話』, ポスター出展, 2026/3/7

【研究会・シンポジウム・セミナー等の開催】

- 1) 2025 年度 新潟大学佐渡自然共生科学センター 日独連携シンポジウム『官・民・学で拓く自然共生社会』, 2025/11/5
- 2) 新潟大・金沢大・島根大 J-PEAKS 連携シンポジウム『大気・陸域・海洋環境の広域連携による学際研究への展開』, 2025/12/25
- 3) 新潟大学佐渡自然共生科学センター 市民講座『離島から発信する森のおはなし ～研究者は語る in 佐渡～』, 2026/3/7
- 4) 2025 年度 新潟大学佐渡自然共生科学センター 学生発表会 2026/3/8

【メディアでの報道】

- 1) 新潟日報, 「自然探求の島 佐渡」, 2025/6/15
- 2) 文教ニュース, 科学技術振興機構『さくらサイエンスプログラム』友情と感激 第463回「新潟大学の活動報告」, 2025/10/27
- 3) 新潟日報, 「ゴカイ新種 佐渡で発見」, 2026/2/25

構成員

1) 教職員

佐渡自然共生科学センターセンター長・海洋領域長・教授

安東宏徳 (hando311@cc.niigata-u.ac.jp)

理学博士

専門分野 生殖内分泌学, 神経内分泌学

(産卵回遊魚の海洋環境適応の脳内メカニズム)

准教授 (2025 年 6 月より)

大森紹仁 (omori@cc.niigata-u.ac.jp)

博士 (理学)

専門分野 進化発生学, 系統分類学

(棘皮動物の体軸進化と自然史に関する研究)

特任助教

川坂健人 (kawasakak@cc.niigata-u.ac.jp)

博士 (理学)

専門分野 魚類行動学, 行動生態学

(なわばり性魚類における社会行動と社会的認知)

技術専門職員

下谷豊和 (simotani@cc.niigata-u.ac.jp)

専門分野 研究・実習補助

技能補佐員

小杉かおる

事務補佐員

本間 悟

2) 学生

自然科学研究科博士課程 2 年	長部 有沙
自然科学研究科修士課程 2 年	長谷川 蓮
自然科学研究科修士課程 2 年	堀井 紘大
自然科学研究科修士課程 1 年	小和田 颯汰
自然科学研究科修士課程 1 年	飛田 峻馬
自然科学研究科研究生	Haphsa Khanom
自然科学研究科研究生	Shaharier Ahmed
理学部フィールド科学人材育成プログラム 4 年	相崎 一陽
理学部生物学プログラム 4 年	佃 壮留

表紙写真：コブダイとブリ（撮影：川坂健人）